

## 咸臨丸、14年の軌跡

### 1857年 咸臨丸、オランダ・キンデルダイクで誕生

咸臨丸は、江戸幕府がオランダに発注した軍艦で、ロッテルダム近郊のキンデルダイクにあったフォップ・スミット造船所で建造されました。発注時に船名が決まっていなかったため、ヤパン/JAPANと名づけられた3本マストのバーク型スクリュウ式木造蒸気帆船でした。船の大きさは、今の設計基準値に換算すると、排水量:約625トン/重量トン:約380トンとなります。

1856年に進水したヤパン号は、フェイノルトで蒸気機関を搭載した後、オランダ海軍の軍港だったヘルフトスライスへ回航されて大砲など軍艦としての艤装が施されました。そして、日本への遠洋航海の準備を整えて1857年3月26日(木)/安政4年3月1日にヘルフトスライス軍港を出港しました。



咸臨丸子孫の会

オランダ・キンデルダイク



日本オランダキンデルダイク造船所内に  
残存する咸臨丸建造時の船自中央の石  
2007年06月6日撮影 咸臨丸子孫の会 19th

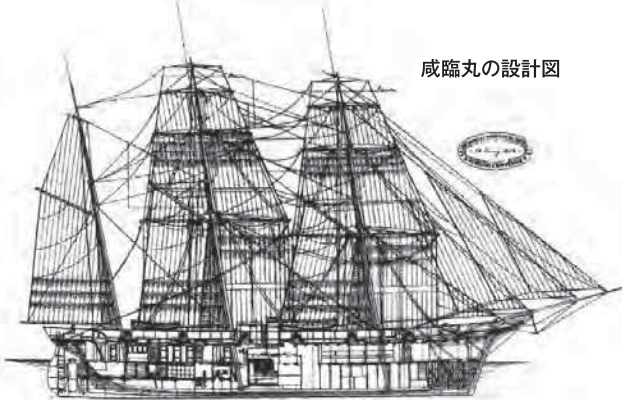
咸臨丸建造時の石の台座跡

### 1857年 咸臨丸、長崎海軍伝習所で航海訓練

オランダ海軍のカッテンディーケ中佐を指揮官とする乗組員が操船するヤパン号は、蘭印バタビア(現ジャカルタ)経由で長崎港に到着し、到着から10日後の1857年9月22日(火)/安政4年8月5日に日本側に引き渡されて長崎海軍伝習所

練習艦としての活躍が始まりました。その後、江戸からの通達(長崎御達書)により「咸臨丸」と命名されました。

カッテンディーケ中佐ら乗組員は、引き渡し後に長崎海軍伝習所教官として伝習所が開鎖されるまで、多くの日本人伝習生に最先端技術を伝承しました。長崎海軍伝習所は、1859年5月18日/安政6年4月16日の最終講義で閉鎖となり、その機能が江戸の軍艦操練所に引き継がれました。このことにより所属する全ての軍艦も移籍されました。



咸臨丸の設計図

### 1860年 咸臨丸、勝海舟らによる太平洋横断の壮挙

日米修好通商条約の批准書交換のため遣米使節が派遣され、その随伴艦として咸臨丸が選ばれました。正使が乗った米軍艦ポーハタン号の他に別艦が派遣されたのは長崎海軍伝習所以来の操艦技術を遠洋で試すことが真の狙いでした。

軍艦奉行木村摂津守(提督)、軍艦操練所教授方頭取勝麟太郎(艦長)以下90余名が乗り組んだ咸臨丸は、1860年2月10日(安政7年1月19日)に浦賀を出航。冬の北太平洋の暴風雨に翻弄されながらも38日間の航海でサンフランシスコ到着、ついに太平洋横断を果たしました。

この壮挙は日本側の要請によって同乗した米海軍士官ブルック大尉とその部下10名の航海術に負うところが大きかったです。

米国滞在中の一行は様々な近代文明を体験し、見聞を深めました。

帰路はほぼ日本人乗組員だけで航海し、ハワイを経て、同年6月23日(万延元年5月5日)に浦賀に帰着しました。



福沢諭吉(右)ら咸臨丸の乗組員



鈴藤勇次郎作「咸臨丸難航図」  
(横浜開港資料館保管)